



B 日程

二〇二四年度

尚綱学院高等学校

入学試験問題

国語

試験時間(五〇分)

注意事項

- 一. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
- 二. 解答用紙には決められた欄に受験番号のみ記入し、氏名は書かないでください。
- 三. 解答は必ず解答用紙のそれぞれ決められた欄に記入してください。
- 四. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
- 五. 考査が終わったら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
- 六. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

第一問 次の各問いに答えなさい。

問一 次の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- (1) この小説はクツシの名作だ。
- (2) 果物のシュウカクを手伝う。
- (3) 事件の核心にセマる。
- (4) 費用をみんなで折半する。
- (5) 状況を把握することが第一だ。
- (6) 穏やかな表情で景色を眺める。

問二 熟語の構成が「需給」と同じものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 表裏
- イ 被害
- ウ 官宮
- エ 清流

問三 次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたとき、総画数が最も多いものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 花 イ 初 ウ 羽 エ 価

問四 Aさんの中学校では、文化祭で生徒会執行部がステージ発表をする時間が設けられていて、その発表内容を生徒会執行部で決め、パンフレットを制作することになりました。次は生徒会執行部での【話し合いの一部】と、その後検討したパンフレットに載せる原稿の【下書き】です。後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

【話し合いの一部】

〈Aさん〉今年も文化祭シーズンだね。執行部メンバーが決まったときから、あの程度は案も考えていたから、^A挙げられるだけ案を挙げて執行部メンバーの投票結果で決定するというのはどうかね。

〈Bさん〉さすが生徒会長。立候補するときに、いろいろしたいことは考えているって言うってたものね。

〈Aさん〉文化祭のステージ発表も毎年恒例だったし、^Bおもしろいことをしたってずっと思ってたんだ。

〈Cさん〉それならAさんの考えている案を^Xしたいな。だって、執行部役員はAさんと私、Dさんの三人。私たち三人は会長に立候補したときに、ステージ発表のことも念頭にあったかもしれないけど、他の各委員会の委員長はそれぞれ推薦で決まったわけだし、書記と会計はAさんの任命だから。

〈Dさん〉ぼくは^Yなし。もちろん、ステージ発表で決まればしっかり協力させてもらいますよ。

〈Aさん〉各委員会の委員長は、何か意見がありますか。

〈Eさん〉私たちも、参加はするけど文化祭での展示や他の発表の管理もあるからAさんにお任せできるとありがたいかな。他の委員長はどう？

〈Fさん〉文化委員長の意見に賛成。みんなもOK？

(他の委員長も賛成する)

〈Aさん〉じゃ、早速ですが……お笑いかダンスパフォーマンス。どうかな？

〈Dさん〉ぼくたちが入学してからはそんなステージ発表はなかったし、おもしろいと思うよ。お笑いというのは、たとえばどんなの？

〈Aさん〉はじめはみんな忙しいなら有志で漫才を考えていたけど、みんなが協力してくれるならコントがいいかな。

〈Fさん〉それおもしろそう。反対の人はいる？

(以下話し合いが続く)

【下書き】

生徒会執行部によるコント
「生徒会役員のあつてはいけない毎日」

出演：生徒会執行部一同
発表場所：体育館

普段はまじめでおかたいイメージがあるかもしれない執行部メンバーですが、実は結構おもしろい面々なのです。

あの生徒会長は、毎日こんなことを……。優しそうな副会長がまさか……。書記がつけていた議事録にこんなことが書かれていたなんて……。各委員会の委員長も含め、執行部全員がみなさんを笑いのうずりに巻き込みます！
乞うご期待！

(1) 「^A挙げられるだけ案を挙げて執行部メンバーの投票結果で決定する」というのは「^Aどうか」とあるが、(Aさん)がこのように発言した意図として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 例年の行事なので多くの案が挙がると思い、自分の意見は言わず他のメンバーに任せるという意図。

イ 他のメンバーは誰も案を考えていないと思い、自分の意見を一方的に通そうという意図。

ウ 自分の案には自信がないので、候補を挙げてもらって納得できるものに乗しようという意図。

エ 自分には複数の案があるが、他のメンバーの意見も聞いてから公平に決めるようという意図。

(2) 「^Bおもてなし」と「^Bおもしろい」とは具体的に何か。【話し合いの一部】の中から十五字以内で抜き出しなさい。

(3) 空欄 X ・ Y に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア X 尊重 Y 異論 イ X 確認 Y 異論
ウ X 尊重 Y 真意 エ X 確認 Y 真意

(4) 【話し合いの一部】での、それぞれの参加者についての説明として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア (Aさん)は生徒会長をしていて、他に生徒会長選挙に立候補した人がいなかったため無投票で当選した。

イ (Bさん)は(Aさん)とともに司会をし、話し合いを活発にするために他のメンバーの意見を促している。

ウ (Cさん)は(Aさん)と(Dさん)とともに生徒会長選挙に立候補し、今は(Aさん)を補佐する立場にある。

エ (Fさん)は委員会の推薦で生徒会執行部に入ったメンバーで、自分の意見は言わず他のメンバーに賛否を促している。

(5) 【下書き】をもとに、パンフレットに載せる際、追加したり修正したりしたほうがよいこととして適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

ア 文字ばかりでそっけないので、絵やイラストもいくつか使用した方がよい。

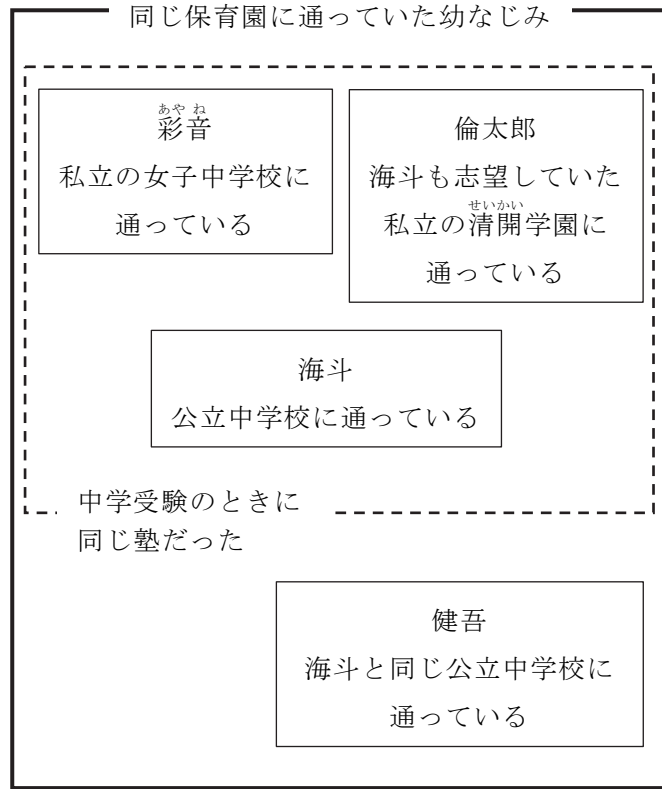
イ コントの紹介を「……」で曖昧にしているので、はっきり書く方がよい。

ウ コントをする場所だけでなく、発表の時間帯も記載した方がよい。

エ 実際の原稿では文字の大きさを変えたり、文字を装飾したりするとよい。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学二年生の海斗は中学受験を考えていたが、研究者だった父がパン職人になるために仕事をやめたことにショックを受け、受験を断念した。幼なじみの健吾と倫太郎と一緒に、父親が住み込みで働くパン工場を訪れた海斗は、父から、自分の父が望んだ道をただ進んできたことを後悔し、今からやり直そうと思ったのだと聞かされた。その後の帰り道、電車の中で三人で話をしている。



A 「なんか、うちの父さんと、どっか似てる……」

「海斗のお父さんとオレが似てる？ なんて？」

倫太郎の疑問に、海斗はさっき父さんから聞かされた話をした。おじいちゃんが納得してくれる道ばかりを選んでしまった結果、こんなことになってしまったと……。

「じゃあもし、オレが海斗のお父さんみたいに優秀なままだったら、親が死んで初めて、本当に歩きたい道は違ってたって、気づくことになったかもしれないってことか……」

倫太郎はそう言うと、腕組みをしてうつむいた。

「本当はお笑い芸人になりたかったとか、気づいちゃうのかもな」

そんな倫太郎の肩に手を置いて、健吾が楽しげにささやく。

「だからさ」

そこで倫太郎が X 顔をあげて言った。

「わがままって、言ってもいいんだよな」

海斗は、その言葉にドキリとした。

「ちゃんと自己主張していかないと、海斗のお父さんみたいに、大人になってから、歩きたい道はここじゃなかったって気づいて、後悔するってことだよな……」

それって……。

海斗は Y、思いを巡らせた。

本当はどうしたいのか、ちゃんと自己主張しないと、あとで後悔するということ……とだ……。

あとになって、進みたい道を歩けなかったのは、会社をやめた父さんのせいだと言いつても、その責任は自己主張してこなかった自分にあるということだ。

そうだ。もう父さんのせいにするのはやめよう。

自分はまだ中学生だ。

エリートだとか、そうじゃないとかにとらわれずに、どんな道に進むか、なにをしたいのか、自由に選んでいいのだ。

「オレ……」

そこで海斗の心は、大きく動いた。

「高校、おまえのどこ目指すわ。清開学園目指す」

「はあ？ どうしたんだよ、急に」

倫太郎はあまりの急展開に戸惑っているようだったが、海斗はつづけた。

「いや、受験をあきらめたところからやりなおさないと、オレも、ヤベーことにな

るなって思ってた」

海斗は思いきって、自分の心の奥深くで眠らせつづけてきた、パンドラの箱を開けることにした。

「オレ、実は清開学園に入ったら、デイベート部に入りたかったんだよ」

「デイベート部……」

倫太郎がぼんやりと繰り返す。

「五年生の秋に、清開の学園祭に行ったとき、高校生の模擬国連の映像が流れててさ。絶対にこの部活に入って、高校生になったら模擬国連に参加したいって、密かに決めてたんだよ」

それは、将来どんな病気でも治す薬を開発する人になりたいという夢より、はるかに強い希望だった。

あの頃、大人になってからの夢を語るのには簡単だった。その夢はまだまだ遠い未来だし、いくらでも変更は可能だという気楽さもあった。

だけど、清開学園のデイベート部に入って、高校生になったら模擬国連に出たという夢は、あまりに具体的で、かつ近すぎる未来で、恥ずかしくて口にできなかったのだ。

「ちよつとく！」

そこに健吾が怒ったような口調で、割り込んできた。

「オレ、全然話が見えないんですけど！ 模擬国連ってなに？ 彩音の学園祭でもその言葉聞いたぞ！」

健吾が聞き慣れないのは、当然だった。

「模擬国連っていうのはさ。ニセモノの国連会議を開催して、各チームでその国の大使になりきって、決まったテーマにそって議論するんだよ」

実は海斗もくわしく知っているわけではなかったけど、わかる範囲で説明を試みた。

「例えばその会議のテーマが【子どもの貧困】で、自分のチームが【ノルウェー】だったら、ノルウェーの大使として、他の国を担当しているチームと英語で意見を闘わせるわけ」

「はあ？ 英語で？ よその国の人になりきって？ 日本代表じゃダメなわけ？」
驚く健吾に、今度は倫太郎が説明をはじめた。

「だって、国連だからさ。いろんな国が集まって議論しなきゃ意味ないじゃん。うちの国ではこんな対策をとってて、でも、こんな問題もあるんですけど、その国の代表として議論しなきゃならないから、担当になった国について調べあげないとその国の人として話せないし、だから準備もスゲー大変だし……海斗、マジであれやりたいの？」

倫太郎が顔をしかめて聞く。

「うん、だから塾はやめても、英会話教室だけはどうしてもやめられなかったんだ」

そうなのだ。中学受験はやめても模擬国連への夢だけはどうしても捨てられなくて、それで英会話教室だけはつづけてきたのだ。

「だから彩音の学園祭で、おまえが模擬国連を手伝わされてるって聞いて、うらやましかったよ」

海斗はあのととき感じた、猛烈な嫉妬心を思いだす。

「倫太郎はデイベート部ではないの？」

すると、倫太郎は首を大きく横に振って言った。

「オレは違うよ。うちの兄ちゃんがデイベート部だったから、それで顧問の先生に目をつけられてさ。あのとときも先生に見つかっちゃって、手伝いさせられてたんだけど、なにが楽しくてあんなことやってるのか、オレにはまったく理解できないよ」

「オレも……今聞いても、そんなことしてなにが楽しいのか全然わかんねーわ」
健吾もうんざりした声を出してうなずく。

「だけど……」

倫太郎がつづけた。

「模擬国連やりたいなら、やっぱりうちの高校に行くのがベストだと思う。うちの高校のデイベート部は、世界大会に出たことある先輩もいるしな」

「そう、それを目指したい」

海斗は自分で言いながら、こんなに **Z** 自分の希望を口にしたのは、いつ以来だろうと思った。

そして、希望を口にするだけで、こんなに気持ちが弾むものなのかと驚くばかりだった。

うまくいくか、いかないかなんて、わからない。

それでも、やりたい！ やってみたい！ あきらめたくない！

いろんな国の大使になりきって、国際問題を議論してみたい！

そう心に決めると、不思議と父さんのことなんて、どうでもいいと思えた。

だって、高校生になるまで、もう二年ないのだ。迷ってる暇はない。今すぐ勉強を開始して、清開学園に入れる学力をつけなければならない。

「海斗、良かったな」

D 倫太郎がしみじみと言った。

「お父さんから話を聞いたおかげで、前に進めそうじゃん」

「そうかな……」

海斗はあいまいにうなずきながら、それは違うとはっきりと思っていた。

父さんから話を聞いたからじゃない。

倫太郎と健吾といっしょに来たからだ。

こうして二人に、話を聞いてもらえたから、ずっと蓋をしていた本心を導き出すことができたのだ。

だけど、そんなことは恥ずかしくて、とても言えなかった。

(草野^{くさの}たき「マイブラザー」による)

問一 空欄 **X**、**Y**、**Z** に入る言葉の組み合わせとして

最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|-------|---|-------|
| ア | X | すらりと | Y | じつくりと | Z | クツキリと |
| イ | X | するりと | Y | しつかりと | Z | ザツクリと |
| ウ | X | むくりと | Y | ゆつくりと | Z | ハツキリと |
| エ | X | ゆらりと | Y | どつぷりと | Z | スツキリと |

問二 **A** 「なんか、うちの父さんと、どっか似てる……」とあるが、海斗は倫太郎の

どのようなところが自分の父と似ていると感じたのか。本文中の言葉を用いて、四十五字以内で書きなさい。

問三 **B** 「自分の心の奥深くで眠らせつつけてきた」とあるが、それはなぜか。その

理由として最も適当なものを、次の選択肢から選り記号で答えなさい。

- ア 清開学園に入ってデイベート部に入りたいという夢は、どんな病気でも治す薬を開発する人になるといふ夢に比べるとあまりに小さいものだから。
- イ 清開学園に入ってデイベート部に入りたいという夢が、大人になってからの夢よりも近い未来のことで恥ずかしさを感じていたから。
- ウ 清開学園に入ってデイベート部に入りたいという夢を持ってはいたが、一度受験に失敗した自分には無理な夢だと諦めていたから。
- エ 清開学園に入ってデイベート部に入りたいという夢を持ってはいたが、高校受験までの間にその夢が変わってしまうかもしれないから。

問四 「健吾が怒ったような口調で、割り込んできた」とあるが、このときの健吾

の心情として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 「模擬国連」という言葉にあまり興味がわかず、盛り上がるのなら自分のではないところで話をして欲しいと不愉快に思い、すねる気持ち。

イ 「模擬国連」という聞いたことのない言葉を二人は使っているの、自分だけ仲間外れにされたようで寂しく、つまらなく感じる気持ち。

ウ 「模擬国連」という聞き慣れない話題で二人が話しはじめていて、自分に理解できない難しいことを話さないで欲しいと強く非難する気持ち。

エ 「模擬国連」という言葉は聞いた記憶はあるが、詳しいことがわからず二人の話についていけなくなったので何とか輪に入りたいという気持ち。

問五 「倫太郎がしみじみと言った」とあるが、ここからわかる倫太郎の人物像として適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

ア 海斗の決意を聞いて素直に良かったと思える友だち思いの人物。

イ 海斗の希望が叶えられるかどうかを考えて冷静に判断できる人物。

ウ 希望に向かって動き出そうとする海斗を応援できる前向きな人物。

エ 海斗が突然言ったことでも受け入れてくれる優しさのある人物。

問六 「それは違うとはつきりと思っていた」とあるが、このときの海斗の心情として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 自分の気持ちを口にし、目標に向かって歩み出せるのは幼なじみの二人が話を聞いてくれたからだだと確信し、それを感謝する気持ち。

イ 父が会社をやめたことにわだかまりがあったが、今はどうでもいいと吹っ切れた思いで、その変化に自分自身の成長を感じる気持ち。

ウ 父の話を知ったことで前に進めそうなのは事実だが、幼なじみの二人がその環境を作ってくれたからだと自分に言い聞かせる気持ち。

エ 自分が前に進めそうなのは、父の話を聞いたからではなく、倫太郎と健吾と一緒に聞くことができたからだと思えようと思ふ気持ち。

問七 この文章で描かれている内容として適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

ア 海斗は五年生の秋に清開学園の学園祭を見て、清開学園のデイベート部に入って模擬国連に参加したいという夢を密かに持った。

イ 海斗が中学受験や塾をやめても英会話教室だけは続けてきたのは、模擬国連の夢が捨てきれなかったからである。

ウ 倫太郎がデイベート部の手伝いをさせられていると聞いた海斗は嫉妬心を抱いたが、倫太郎はデイベート部員ではない。

エ 健吾はそれまでデイベート部にまったく興味がなかったが、海斗と倫太郎の話を知ったことでデイベート部に入ろうと決めた。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

世の中の失敗は二つのタイプに分かれると私は考えます。

「許される失敗」と「許されない失敗」です。

もっと簡単に言うなら「よい失敗」と「悪い失敗」です。

まずは「よい失敗」について説明します。

「よい失敗」とは「個人が未知なるものに遭遇して起きた失敗」です。個人が無知であったり、X、何かミスして起きるタイプの失敗です。この手の失敗をしたひとは、なんらかの批判やペナルティを受けることとなります。その失敗で、ある程度、まわりのひとに迷惑をかけてしまったのであれば、叱られるくらいは仕方ないかもしれません。しかし、あまり責め立てたりするのは避けるべきです。

なぜなら、その「未知なるものとの遭遇による失敗」は、そのひとが成長する過程において、必ず通過しなければならないものだからです。

失敗なしに人間は成長しません。ひとは失敗して成長し、また小さな失敗を体験して、その分、成長していくというくり返しのなかで、一つひとつの失敗経験から体験的知識を得ることで、次の大きな失敗を起こさないために、徐々に軌道修正していくからです。さらには、その失敗経験を将来の成功へと転化することもあるからです。

B 失敗と成長・発展の関係は、生物学の「系統発生と個体発生の仕組み」の原理に似ています。

【ア】

私たちはどのようなプロセスを経て「人類」へと進化したのか、みなさんも学校の理科の時間に習ったと思います。系統発生で考えると、およそ一〇億年前、地球に初めて動物や植物の祖先となる多細胞生物が登場し、約四億六〇〇〇万年前に魚類が登場、その一部が両生類となり、そこから哺乳類が進化して、人類が誕生しました。

一方、私たちは母親の体内で受精卵から赤ちゃんにまで成長しますが、この個

体発生においても、やはり系統発生と同様に、受精卵は細胞分裂をくり返して、最初は魚類、次は両生類というプロセスを経て、最後に「人間」の姿となります。

Y、人類が誕生するまでの系統発生の一〇億年のプロセスが、赤ちゃんが誕生するまでの個体発生の一年足らずのプロセスとして、母親の体内で、再びくり返されているのです。

私は、人類が母親の体内で「魚類→両生類→哺乳類」という進化のプロセスをたどって生まれてくることと、人間が失敗から知識を得ながら成長していくプロセスに共通するものを感じます。

人類はこれまで、その長い歴史のなかで、さまざまな失敗を経験してきました。その失敗の数々が人類を進化させ、文明を発展させて、現在の私たちの世界につながっています。それは、一人の人間が成長するときも例外ではなく、人類がたどった歴史と同じく、数々の失敗を体験してこそ、初めて成長できるのではないかと思うのです。

【イ】

ですから、成長したいと望むひとは、積極的に「よい失敗」を経験するべきです。

Z

C

「悪い失敗」とはどのようなものでしょうか。

極端に言えば「よい失敗」に含まれないすべての失敗が「悪い失敗」と言えます。具体的には「単なる不注意や判断ミスで起こり、そこからは何も学ぶことができず、何度もうくり返されてしまうような失敗」です。たとえ他人には迷惑をかけないものであったとしても「悪い失敗」です。失敗したひとにとって意味がなく、反省もされないもので、習慣的にくり返され、やがて大きな失敗につながるリスクがあるからです。

逆に、失敗したひとにとって意味があり、成長を促すきっかけになったとしても、周囲の人間に悪影響を及ぼすような失敗は「悪い失敗」です。

一人の人間が成長するために他人が甚大なダメージを受けてもいいはずがありません。その失敗によって得られるメリットとデメリットを比べたとき、圧倒的にデメリットの方が多ければ「悪い失敗」なのです。

失敗から体験知識を得ようとすれば、一つひとつの失敗が取り返しのできないほど大きな失敗につながらないよう気をつけながら、ダメージをリカバーできる程度の「よい失敗」の経験を積み重ねていく必要があります。

【ウ】

もし、それが「悪い失敗」であれば、いくら経験しても、個人として成長することはできません。

ただし、そこには一つ、課題があります。仕事や日常の生活で起きている大小さまざまな失敗のなかでも、経験したときにそこから体験的知識を得られるような「よい失敗」は、決して多くないということです。

ただ、この課題を解決する方法はありません。自分自身の「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも体験的知識を得られるようになればいいのです。

そのためには、「自分自身が「よい失敗」をした」という数少ないチャンスが到来したとき、その貴重な経験から体験的知識を得るために有効な取り組みを実践することで、失敗の本質を理解して、より確実に「よい失敗」から体験的知識を身につけていく経験の積み重ねが必要になります。

【エ】

そのような経験を積み重ねていけば、自分が起こした「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも効率的に体験的知識を学びとれるようになります。

結果、たとえ自分自身で「よい失敗」を経験する機会が少なくても、資料として記録されている他人の典型的な「よい失敗」の原因を分析することで、そこから体験的知識を学び、自身の成長につながられるようになるのです。

(畑村洋太郎「やらかした時にどうするか」による)

問一

空欄 X、Y、Z に入る言葉として最も適切なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。同じ記号は二度使えません。

- ア なお イ あるいは ウ しかし エ つまり オ たとえば
カ では キ なぜなら

問二

本文中に次の一文が入る。この一文の場所として最も適切なものを、本文中の【ア】～【エ】の中から選び記号で答えなさい。

・この「ひとが成長するうえで、必ず必要となる失敗」が「よい失敗」なのです。

問三

「あまり責め立てたりするのは避けるべきです」とあるが、筆者がそのように考える理由をまとめた次の文の [] にあてはまる内容を、本文中の言葉を用いて四十字以内で書きなさい。

・「よい失敗」はひとが成長する過程で必要なものであり、[] から。

問四

「失敗と成長・発展の関係は、生物学の『系統発生と個体発生の仕組み』の原理に似ています」とあるが、どのような点が似ているのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 個人としての成長や誕生ではなく、人類として同じ進化をしてきた点。
イ 初めは小さな存在であったものが、次第に大きく高次に発展する点。
ウ さまざまな失敗やプロセスが進化や成長、発展につながっている点。
エ 人類の誕生と同じプロセスがくり返されるように失敗もくり返される点。

問五 「『悪い失敗』とはどのようなものか」とあるが、「悪い失敗」の

説明として適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

ア 失敗から学ぶことができない、単なる不注意や判断ミスで起こるような、何度もくり返されてしまう失敗。

イ 成長はできるが、周囲の人間に悪影響を及ぼしたり、他人が甚大なダメージを受けたりするような失敗。

ウ 失敗から体験知識が得られ、一つひとつの失敗が取り返しのつかないほどのものではない失敗。

エ 失敗によって得られるメリットとデメリットを比べたときにデメリットの方が圧倒的に多い失敗。

問六 「取り返しのつかないほど大きな失敗」とあるが、これに近い意味を表す故

事成語として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 漁夫の利

イ 杞憂きゆう

ウ 人間万事塞翁が馬

エ 覆水盆に返らず

問七 「そこには一つ、課題があります」とあるが、その課題を解決するために筆者が提案している内容として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で

答えなさい。

ア 他人の「悪い失敗」を見て、自分の行動を改める習慣をつけること。

イ 他人の「よい失敗」の原因を分析することにより、体験的知識を学ぶこと。

ウ 自分の「よい失敗」を振り返り、同じ失敗をくり返さないようにすること。

エ 「よい」「悪い」に関係なく多くの失敗をして、経験を積み重ねていくこと。

第四 問 次の〈文章Ⅰ〉の古文と、それに対する会話である〈文章Ⅱ〉

を読んで、後の問いに答えなさい。

〈文章Ⅰ〉

ある在家人、山寺の僧を信じて、^{*1} 世間・出世深く憑みて、病む事もあれば薬までも問ひけり。この僧、^{*2} 医骨も無かりければ、万の病に、「藤のこぶを煎じて召せ」とぞ教へける。これを信じて用ゐるに、万の病癒へざる無し。

ある時、馬を失ひて、「いかか仕るべき」と云へば、例の「藤のこぶを煎じて召せ」と云ふ。心得がたけれども、やうぞあるらむと信じて、あまりに取り尽くして近々には無かりければ、山の麓を尋ねける程に、谷のほとりにて、失せたる馬を見付けてけり。これも信の致す所なり。

(「沙石集」による)

【注】

*1 世間・出世：俗世間のことと仏道のこと。

*2 医骨：医術の心得。

〈文章Ⅱ〉

樹里 この話では、ある人が山寺の僧の教を信じていたことが描かれていたね。

太一 僧の教を守って、【A】なんてすごいね。

樹里 それだけではないよ。馬がいなくなつたときにも、同じようにアドバイスをもらい、【B】のにも驚いたな。

太一 「これも信の致す所なり」と結ばれていたけれど、まさに【C】ということだね。

問一 「やうぞあるらむ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問二 空欄【A】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 藤のこぶを煎じて薬を作り、病氣の人々に配っていた
- イ 藤のこぶを煎じて飲んだら、治らない病氣がなかった
- ウ 毎回僧を訪ねて、病氣に効く薬を教えてもらっていた
- エ 病氣が悪化していつても藤のこぶを煎じて飲み続けた

問三 空欄【B】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 近くの藤のこぶは全て取ってしまったという事で向かった山の麓の谷で、馬を見つけた
- イ 近くに藤のこぶはなくなってしまったので煎じて飲めず、馬は谷のほとりで死んでいた
- ウ 遠くの山の中にその馬を探しに行つて、やつとの思いで見つけるとそこには藤が生えていた
- エ 藤のこぶを煎じて飲んだのは自分だったのに、死んでしまった馬が生き返り元気になった

問四 空欄【C】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア 馬には乗ってみよ人には添うてみよ
- イ 坊主の不信心
- ウ 馬の耳に念仏
- エ 鱒の頭も信心から

〈問題はここまで〉

解答用紙〔国語〕

B日程

*の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

受験番号
得点
*

*

第一問

※楷書で大きく丁寧に書くこと。
かいしょ

(4)	(1)
折半	クツシ
(5)	(2)
把握	シユウカク
(6)	(3)
穩	セマ
やか	る

問二

問三

問四 (1)

問四 (2)

(3)

(4)

(5)

*

第二問

問一

問二		

問三

問四

問五

問六

問七

*

第三問

問一	X
	Y
	Z
問二	「
	」

「よい失敗」はひとが成長する過程で必要なものであり、

問三		

から。

問四

問五

第四問

問一

問二

問三

問四

*

--

解答用紙〔国語〕

B日程

*の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

第一問

※楷書で大きく丁寧に書くこと。

(1)	屈指	(2)	収穫
(4)	せつぱん	(5)	はあく
(6)	おだ	(3)	迫
	やか		る

問二 ア
問三 エ

問四 (1) エ
(2) お
お
笑
い
か
ダ
ン
ス
パ
フ
オ

(3) ア
(4) ウ
(5) イ

*

第二問

問一 ウ

問二	親	果	が
	が	、	納
	得	大	し
	て	人	く
	れ	に	る
	道	な	を
	選	っ	ん
	だ	て	結
	結	い	道
	道	道	道

問三 イ
問四 エ
問五 イ
問六 ア
問七 エ

*

第三問

問一 X
イ Y
エ Z
カ
問二 (イ)

「よい失敗」はひとが成長する過程で必要なものであり、

次	の	大	き	な	失	敗	を	起	こ	さ
軌	道	修	正	し	た	り	、	成	功	へ
た	り	す	る	こ	と	が	あ	る		と
										転
										化
										し

問四 ウ
問五 ウ

問六 エ
問七 イ

第四問

問一 ようぞあるらん

*

問二 イ
問三 ア
問四 エ

受験番号
得点
*